

重点課題		重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。		学校関係者の意見	
リーディングハイスクール事業の推進① 中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。	評価指標 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が60%以上。 ○「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒88%(-2p)・保護者92%(±0p)。 ○「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒93%(-3p)・保護者93%(-4p)。 ○「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒67%(-4p)。 ○「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者84%(-1p)・教職員100%(+5p)。	総合評価 (評定) A (所見) 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた教職員の評価指数は高い。その他の項目においても評価指標を十分達成している。昨年度に比較して数値が低くなった項目も向上させられるよう一層の努力をしたい。 中高合同で行われる活動の中で、子どもたちの成長過程における差異をうまく生かすことができると、中学生が高校生を模範とする機会も更に増える。	総合評価Aに相応しい結果ではないか。また、教職員の業務のうち、取捨選択を行い、やめてもよいことを決めて、余裕を持ち伸びしろを確保する時期にきているのではないか。 「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が昨年よりポイントを下けているが、中学生から見ると高校生の存在は十分大人なので、中学生からは近寄り難く、評価指標が60%を超えているのであれば十分高数値ではないだろうか。	①中高が連携し、風通しのよい関係を構築しながら共通理解を図り、実践する。 ②平成32年度の中等教育学校のスタートに向けて、今年度開催された中等教育学校移行に向けての検討会議を校務分掌や教科で継続し、体制の改良や6年間を見通した生徒の発達段階に応じた期待する成長過程についての共通理解を行う。
	(下位組織レベル) 中学生と高校生の良好な関係構築。 中高合同での月例運営委員会や職員会議の活性化。 PTA活動の充実。	活動計画 ①中高職員合同の会議を年20回以上、PTA役員会を年4回以上開催する。 ②中高合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に創設する。	活動計画の実施状況 ①中高合同の運営委員会を毎月1回、中等教育学校移行検討会議12回、職員会議12回、PTA役員会を年4回実施し、各課題について協議した。 ②中高合同での部活動や城ノ内祭をはじめとする学校行事で、弓道部や吹奏楽部等の合同練習による成果が表れ、生徒会活動の中でも連携が深まっている。			
リーディングハイスクール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。	評価指標 ○「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○外部講師を活用した授業を、年間10回以上実施。	評価指標による達成度 ○「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒91%(±0p)、保護者88%(+1p)、教職員100%(+5p)。 ○「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者85%(-2p)、教職員100%(±0p)。 ○「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒81%(+3p)、保護者91%(+1p)。 ○外部講師を活用した授業を、年間25回実施した。	総合評価 (評定) A (所見) すべての項目で、評価指標を上回っている。良好な結果であり、リーディングハイスクールの指定を受けて、学力伸長について、全教職員、生徒がさらに意欲的に取組を進めていることが伺える。各種検定への受検意欲がどの学年においても高い。 また、外部講師を活用した取組も成果を挙げている。さらに「個」に応じた指導体制を整えたい。 公開授業を通し、多面的多角的な視点から授業改善を行うことができている。また、授業評価の結果からより客観的に授業をとらえることができている。	次年度の課題では、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も加えて生徒一人一人のGOALを考えていくのもよいと思う。 「教員は学力を伸ばす教育が行われている」の保護者の数値が、生徒、教職員に比べて低いのは、子どもの成績を気にしているからではないか。順位以外の指標を示す必要があるのではないだろうか。 検定に関しては、取得するとプラスになる、利用価値があるとのメッセージを教員から示すことによって生徒の意識ももっと高まるのではないだろうか。	①自ら課題を発見し、周囲と協力して解決していく力を育成するために、研究テーマをより具体的に設定する。 ②授業評価は継続して行い、授業改善につなげる。 ③各種検定の受検の意義について生徒に話す機会を学年、学級、教科で設ける。 ④グローバルの視点や第5期科学技術基本計画において日本が目指すソサエティ5.0の社会を見据えた外部講師を招くなど、これからの社会に必要な力を生徒に身につけさせる。
	(下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 各種検定への参加。 外部講師を活用した授業の実施。	活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③各種検定を積極的に実施する。 ④外部講師を活用した授業を積極的に実施する。	活動計画の実施状況 ①主体的・対話的で深い学びを可能とする公開実践研究授業2回を含め、中高合同で14回行った。 ②授業評価を年2回実施した。 ③漢字検定(2回)、数学検定(2回)、英語検定(2回)を実施し、ほぼ全員がいずれかの検定を受検した。 ④社会科、体育科、音楽科、総合的な学習の時間を中心に、外部講師を活用した授業を25回行った。			

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
人権教育の推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒87%(-1p), 保護者86%(-2p), 教職員96%(+1p)。 ○「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒76%(-4p), 保護者82%(-2p), 教職員83%(+8p)。	総合評価 (評定) B (所見) 「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒が指標を下回っている理由として、本校生は他人には優しいが、自己評価や自尊感情があまり高くないことが挙げられるのではないかと。必ずしも人権教育だけの問題ではないだろう。勉強も大切だが、引き続き人との関わりも大切にしていきたい。学校生活の中で自尊感情を持つには、学ぶ意味の理解や共に育つことが大事だと思う。ユネスコ学習権宣言などを学ぶことが、大切な基本的人権につながる理由を学ぶ機会を持ってほしい。	①新たな人権課題について、教職員の知識や理解を深めていく必要がある。そのために授業研究や研修会を積極的に実施する。 ②人権学習で学んだことが生徒の生活や生き方に反映されるよう、掲示物や普段の声かけ等、日常生活の場面で定着させる工夫をする。
	(下位組織レベル) 学級活動や学校行事の充実を図る。	活動計画 ①人権問題についての研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権意見発表会を実施する。 ③人権に関する講演会を実施する。 ④職員研修を年3回実施する。	活動計画の実施状況 ①全学年合同での研究授業ではなく、各学年ごとに事前研究、全体授業等を実施した。 ②様々な個人人権課題を取り上げた意見発表会を行った。 ③同和問題をテーマに1年生で人権講演会を実施した。 ④人権主事研修会後に行った校内伝達研修や中高合同の研修など、計5回の研修を行った。		
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。 また、いじめを絶対許さない。 安全教育を徹底し、事故防止に努める。	評価指標 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。 ○「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者76%(-3p), 教職員96%(+11p)。 ○「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒71%(-12p), 保護者95%(+1p), 教職員100%(+5p)。 ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒67%(+1p), 保護者86%(±0p), 教職員38%(+13p)。	総合評価 (評定) B (所見) 「生徒は挨拶ができています」の回答が、生徒・教職員とも70%を下回っている。学校行事などにおける訪問者への挨拶や、保護者に対する挨拶はできているが、日常における生徒同士や教職員との挨拶が十分でないで、より活発なものにしていきたい。また、交通ルールや交通マナーに関しては、生徒の評価は指標の70%を上回っており、昨年度より上昇している。交通ルールやマナーを守り、安全な行動ができていますという自己評価であるが、教職員から見るとまだ十分でない状況にある。	①集団生活における規律ある行動や時間の遵守について、生徒に活動など生徒の自発的な活動から促せるよう、教職員自身が率先し、支援・指導していく。 ②服装・頭髪等の指導については、中等教育学校移行に向けて全教職員が共通認識を持ち、徹底してあたる。特に生徒指導課を中心に、学年間での連携をとった指導を強化する。 ③挨拶の大切さや交通ルールの遵守など日々の生活について、あらゆる機会を捉えて指導する。
	(下位組織レベル) 「時間厳守」の徹底。 「挨拶の励行」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。 積極的ないじめ認知と対応。 「城ノ内生としての自覚ある行動」の推進。 交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。	活動計画 ①始業前着席を励行する。 ②あいさつ運動を実施する。 ③服装頭髪検査を定期的実施する。 ④学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を年2回実施する。 ⑤校外での社会マナーの指導をする。 ⑥毎月1回交通マナーアップ運動を実施する。 ⑦交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。	活動計画の実施状況 ①教員が始業前に授業場所へ行くとともに、生活委員が2分前着席を呼びかけた。 ②毎朝の教職員、生徒会役員、生活委員などによるあいさつ運動を実施した。 ③日常的に、また学年等の集会時に、頭髪服装について指導をした。 ④学期に1回アンケート調査を実施し、いじめ等の問題の早期発見や生徒理解に努めた。 ⑤毎朝、交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。各行事を通じて社会マナーについて話をした。 ⑥登校時、毎月1回生徒指導課の教員が校外で立哨し実施した。 ⑦日常的に、また学年等の集会時に、自転車の乗り方や安全について話をした。		

平成30年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
災害を迎え撃つ 防災教育の推進	(全校レベル) 防災教育を徹底し、災害に備える。	評価指標 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が75%以上。	評価指標による達成度 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒84%(+5p)、保護者84%(-3p)、教職員95%(+35p)。	総合評価 (評定) A (所見) 生徒、保護者、教職員とも評価指標を上回っている。特に教職員の割合が大幅に向上した。また防災避難訓練では、様々な事態を想定して内容を工夫しており、自分達より立場の弱い園児や高齢者の方々と一緒に行うことで、主体性・自主性を持たせ、防災意識の向上と積極的な取組みを推進できた。	防災士の養成は素晴らしい取り組みだと思う。今後も人数が増えていくとよい。学校で熱心に取り組んでいたにありがたい。 また、「登下校中における災害発生時避難場所カード」、「緊急時の生徒引き渡しカード」の作成は、とてもよい取り組みである。大災害はいつ起きてもおかしくない中で、その場で最善の策がとれるよう常に見直しを図ってほしい。 来年度は、評価指標を80%にアップさせてもよいのではないか。
	(下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。	活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②年2回以上、地域の方と連絡を取り共同で活動する。 ③災害時における家庭との連絡体制を、より強化する。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練を青嵐認定こども園の先生、園児、地域の方々も参加し、2回実施した。 ②防災炊き出し訓練を地域の方々も参加し、1回実施した。 ③「登下校中における災害発生時避難場所カード」、「緊急時の生徒引き渡しカード」をすべての学年で作成し、災害時における家庭との連絡体制を強化した。		
環境教育の推進	(全校レベル) 環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。	評価指標 ○「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒75%(-9p)、教職員82%(-3p)。 ○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒80%(±0p)・教職員86%(+1p)。	総合評価 (評定) B (所見) 清掃活動や環境保全に対して、熱心に取り組んでいる。毎日の短時間での地道な活動であるが、日々の積み重ねにより環境保全の取組を確実に継続していくことも大切であると思われる。	ゴミ分別はよくできているので今後も取り組んでほしい。「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒のポイントが昨年と比較して大きく下がっている。今年から中3生の教室が中2までのように木の教室でないためかもしれないが、なぜ下がったのかきちんと説明しておく必要があるだろう。
	(下位組織レベル) 清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。 ゴミの分別や節電・節水に取り組む。	活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①毎日の清掃活動の中でゴミ分別の指導を適切に行った。 ②高校の環境委員による使用水量、電力の推移のグラフに啓発されて、中学生も節水・節電の意識を高めた。 ③吉野川堤防清掃は、中高合同で1回(7月)行った。中学校だけで、校内の野外清掃を1回(12月)行った。		

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事、部活動等の特別活動を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒93%(-1p)、保護者95%(±0p)、教職員91%(+6p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒85%(-1p)、保護者80%(+1p)、教職員86%(+31p)。 ○「生徒会・専門委員会活動は活発に活動している」と答えた生徒85%(+2p)、保護者88%(+1p)、教職員82%(-13p)。	総合評価 (評定) A (所見) 全ての項目で目標を上回っている。特色ある学校行事、部活動、生徒会活動等に熱心に取り組んでいる。部活動については、週33時間授業や提出課題の負担で活動時間に制限があるが、教職員は多忙な中、部活動指導を行い、短時間でも熱心に指導にあっている。	限られた設備や時間の中で、学校行事や部活動に活発に取り組む、成果を上げていることは素晴らしい。部活動や特別活動の分野は、リーディングハイスクールの学力軸以外の大切な柱となるため、今後もこれらの活動を継続・維持してほしい。	①各行事について、実施方法、内容等について見直しを図り、より効率的・効果的に実施できるようにする。 ②行事の際の生徒の自主的な参画について、高校とも連携し、生徒会、委員会活動を中心に更に強く推進する。 ③部活動の時間が限られた中で、集中して練習に取り組めるように、放課後の時間、また練習場所について調整、工夫をする。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実を図る。部活動を活発にする。 生徒会・専門委員会活動の充実を図る。	活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するように広報やPRに努力する。 ③これまで以上に生徒を中心とした生徒会・専門委員会活動を増やす。	活動計画の実施状況 ①各行事で生徒会執行部や委員会の生徒が中心となって行うことができた。 ②部活動の大会等の様子をホームページに掲載し、広報活動を行うことができた。 ③生徒会執行部や各委員会では、それぞれの役割を計画的に実施し、充実した活動を行った。			
開かれた学校づくりと郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。 地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者84%(±0p)、教職員100%(+6p)。 ○「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者95%(-1p)、教職員95%(-5p)。 ○「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒91%(+3p)、保護者95%(-3p)、教職員95%(-5p)。	総合評価 (評定) A (所見) 全ての項目で評価指標を大きく上回っている。保護者や地域の高い関心と支援のおかげで、開かれた学校作りが推進されている。ホームページのアクセス数も増えている。行事等の迅速なアップや連絡事項の周知について理解・協力はできているようである。学校の教育活動に関心が高い家庭が多く、学校公開の参観人数が増えた。総学発表会については好評を得ている。また、水泳や阿波踊り実習等が特色ある学校行事として定着している。	HPを使ったPRができていて、うまく情報発信しているので世間から注目度も高いように思う。学校行事の更なる公開については、公開を行うことで必要になる安全確保や駐車場等の多くの庶務をどうこなすか、負担をどう処理するのかなどを慎重に検討しないといけない。今以上に学校行事を公開するとすると、専任の担当者が必要なのではないだろうか。校舎の老朽化等も含めて、要は予算の限界を感じた。学校に対してふるさと納税ができるようなしくみの創設を考えたと思う。	①ホームページの更新について、引き続き、迅速かつ内容充実にも努める。特に、各教科の授業の様子や日常的な教育活動について、全教職員が意識して取り組む。 ②学校公開の日以外の学校行事の公開については検討を要する。 ③文化祭は、次年度以降も更に生徒の体験活動を取り入れたものにしていく。 ④学校の特色となる多様な行事については、今後も継続的に実施する。
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。 「学校公開の日」の実施。 城ノ内祭の公開。 地域に根ざした体験活動・行事の実施。	活動計画 ①ホームページの更新に全ての教員が関わり、週2回以上更新する。 ②「学校公開の日」を実施する。 ③文化祭を公開する。 ④阿波踊りや水泳実習・総学発表会等地域資源を生かした多様な行事を実施する。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は519,085回(昨年比17%増)、総アクセス数3,766,889回であった[1月現在]。 ②参観者は596名(昨年度553名)であった。また、授業以外の学校行事の公開を望む声もあった。 ③各クラス趣向を凝らした楽しい体験的活動を計画し実施できた。 ④計画通り実施することができた。それぞれの学習で積極的に活動する生徒の姿が見られた。			